

みやもと けんじ
宮本 顕治光市
(1908～2007)

提供：毎日新聞社

光市出身の宮本顕治は、東京帝国大学経済学部在学中、雑誌『改造』の懸賞文芸評論に応募し、芥川龍之介論「『敗北』の文学」で第一席となって文壇に登場した。

以後宮本は、昭和六年共産党に入党し、同七年に中条（宮本）百合子と結婚するも、日本プロレタリア文化連盟弾圧をのがれ、小林多喜二とともに地下生活に入る。昭和八年に検挙され、太平洋戦争終結まで十二年間獄中生活を送る。

戦後は共産党中央委員として書記長、委員長を務めながら『宮本顕治文芸評論選集』等を刊行し、かつてのプロレタリア文学時代の機械的、観念的な論評を批判した。

（福田礼輔）

【主な著作】

『敗北の文学』（岩崎書店、昭和21年）

『宮本百合子の世界』（新日本出版、昭和55年）

『宮本顕治文芸評論選集』全4巻

（新日本出版、昭和41～55年）